

意欲的な漢文学習への試み

永 楽 仁 八

一、はじめに

野津高校は大分市から南に、車で約一時間の農村地帯に位置する、全校生徒三六〇名余、各学年三学級の小規模校である。近年、地域の進学熱の高まりによって、大学進学を希望する生徒が増加しつつある。

現在、一学年次から進路別の学級編成が行われており、一、二組が就職希望者を中心とした教養コース、三組が進学コースである。

この二つのコース間、また同一のクラス内でも現実の問題として、入学時点から厳然たる学力差が存在する。同時に、生徒の目的意識の関係から学習意欲や態度の差も生じている。

僕は、この学校にきて全然おもしろくないです。〔中略〕しかし、もうしかたないので野津でがまんしようと思っていたけれど、今日の説明でまたきらいになりました。

中学校の時は5時間のかもくだけで高校は6時間までであるだ

からきらいです。〔中略〕明日からはまたべんきょうだと思うと力がぬけてきます。勉強もだんだんむずかしくなってくるので、たいへんになります。高校はよだきいです。

この文章は、本校の教養コース三年生の生徒が、入学の翌日に書いた作文の一部である。

このような感想をもちながら入学してくる生徒たちに対して、どう取り組んでいくか。少なくとも卒業の時点では、「高校で学んで良かった。学力が伸びた。」という満足感で送り出したい。そのために、どのような指導を工夫するかが、我々に与えられた課題である。

二、授業への視点

先の生徒の作文に象徴されるように、本校の教養コースは、これといった目的意識も持たず、学習意欲も低いように見える生徒たちが多く集まっている。授業中の指示や解説にほとんど耳を貸さない者も、クラスに四〜五名いた。授業の妨害をするわけでも

なく、ぼんやりと座ったままの生徒や居眠りをする生徒たちに対して漢文をどう教えるか。生徒の実態に合わせて授業内容の精選を試みる必要が出てくる。以下、授業の際に心がけた点をまとめたい。

(1) 漢文訓読の基礎的な力を身につけさせることにより、漢文学習に対して自信を持たせる。

漢文は難しいという先入観は生徒だけでなく教師の側にもある。そのために書き下した文も口語訳もそえた教材を用いて授業を進める方法が取られることがある。もちろんこの方法が有効な場合もある。しかし、学習者にとってこれは模範解答の示されたテストを解かされることと似ている。むしろ、返り点に従って自力で書き下し文に直すこと、辞書を引き、説明を聞いて自分なりに作品を読み取っていくことの活動の中に、生徒の自信が生まれ、漢文への興味や関心が育っていくのではないかと考える。

(2) 漢字、熟語、故事成語などの意味を理解させ、各自の言語生活の中に生かさせる。

授業の中では、教材に登場する漢字・語句をふまえて関連する漢字や語句の説明を極力行った。特に就職を主目的としたクラスであるので、就職試験によく出題される反意語や四字熟語などにはとくに配慮した。説明の方法も、クイズ形式を取るなど興味を引くようにした。また、漢和辞典を準備させ、毎時間

できるだけ使用させるようにした。

(3) 作品の主題、登場人物をその置かれた状況と関連させ、現代の私達に通じる人間のドラマとして読ませる。

漢文を単なる知識や一般教養でなく、また教訓的な話としてでなく、生身の人間のドラマとして読ませたいと考える。そのために、作品の生まれた時代背景を時には説明を加え、時には作品から読み取っていくなどして、現代の生徒たちの生き方考え方と関わり合わせるようにした。

三、授業の方法

(1) 音読の重視

授業の始めには必ずクラス全員で声を揃えて音読をさせる。入学当初から古典の授業の約束事として習慣化しているので比較的、大きな声で読める。

初めての教材の場合

① 教師の範読→二回（一回目はゆっくり、二回目は普通の速さで読む。この時生徒は、教科書に読みのポイントをメモしながら聞く。）

② 一斉読み→一回（教師が一節ごとに区切って読み、「ハイ」の合図で一斉に音読する。最初は一文をかなり短く区切っていたが、次第に長く区切っても読めるようになってきた。）

の形で、二時間目以降は、②のみおこなっている。

四、指導の実際

(2) 学習プリントの使用

先に述べたように、一斉授業の形態は非常に困難であると考
え、それぞれの生徒に作業を課すことで授業に参加させること
を狙いとして、学習プリントを作成した。プリント学習の効果
として、次のような点が考えられる。

- ① 発問を文字化することによって、学習の狙いが生徒に明
確に伝わる。
- ② 作業を通じて、生徒一人一人が授業に参加できる。
- ③ 机間指導の時間が生まれ、生徒の個人差に対応できる。
- ④ 学習事項が整理され、重要事項の復習が効果的におこな
える。

逆に問題点として

- ① プリントの問題に規定され、正解を書き込むことだけに
気を取られる生徒が出てくる。
- ② プリントの問題に規定され、授業の変化が乏しくなりが
ちである。
- ③ 学習プリントにまで、関心を示さない生徒がいる。
などがあげられる。

なお、学習プリントの様式や内容については、当初から定ま
った形式をもっていただけではなく、単元、教材が進むにつ
れて試行錯誤し、改善を続けながら現在に至っている。

実際に授業で使用した学習プリントの分析を中心に、考察を進
めていきたい。ただ、授業の進度は非常に遅く、扱った単元も以
下の通りごくわずかである。

一年三学期 漢文入門

漢文訓読のルール

故事「画龍点睛」「借虎威」「五十歩百歩」

漢詩 漢詩の基礎知識「春曉」「送元二使安西」

二年二学期 中国の詩文

「桃花源記」「雜説」「売炭翁」

三年一学期 故事・小話

「朝三暮四」「漁夫之利」「助長」「蛇足」「漱石枕流」「白眼

視」「呂安題鳳」

三年二学期 唐詩

「竹里館」「静夜思」「出塞(王之涣)」「涼州詩(王翰)」

「九月九日憶山東兄弟」「送友人」「春望」「磧中作」「子夜呉

歌」

以下それぞれの学習プリントの作成とその使用で留意した点を
まとめた。

一年次の指導から

(1) 学習のプリント「漢文訓読のルール」について(資料①)

④

(7) 返り点を易しいものから難しいものへと小さく段階に配列する。

国語Ⅰの教科書を数種類調査し、レ点・二点・上下点までを限度とし、それ以上に複雑なもの扱わないこととした。また、単なる符号の解説にとどまらず、実際の訓読で生徒が迷いやすいところ(学習プリントの3、5、6、7、8など)も、一つのルールとして扱い、段差をできるかぎり小さくした。

(4) 例文、練習問題は国語Ⅰの教材から選ぶ。

さらに、練習問題についても必ず短文で練習させることとし、調査した国語Ⅰの教科書の教材から抜き出した。文の内容説明も合わせておこなうことで、漢文の世界への関心を高めることができるからである。四角に番号を入れさせる方法は、クイズ的な要素があり学習者の興味を引くが、実際の文章読解とのつなぎで、つまづかせる恐れがあるので、ほとんど用いなかった。

(2) 学習プリント 五十歩百歩 について

漢文訓読の基礎練習を終え、漢詩を二編扱った後、故事成語を読んだ。「画龍点睛」「借虎威」には教科書に書き下し文や口語訳があったため、「五十歩百歩」が、本格的な漢文教材の最初となる。故事成語を単に知識として教えるのではなく、孟子の理想やそれを解くための論理展開の巧みさも読み取らせたい。そして、このような理解を背景に持ちながら、この言葉を使えるようになって欲しいと考えた。

て欲しいと考えた。

① プリントその1(資料⑤)

このプリントでは語句の読みと意味、重要な句法の整理を主眼としている。漢和辞典の引き方を説明しそれぞれ生徒に調べさせた。この作業の時には机間指導を徹底し、また周囲の座席の者同志で教え合うこともさせた。また作業の合間に漢字や熟語のクイズを入れ、学習に変化を持たせる配慮をした。

② プリントその2(資料⑥)

「設問2」学習プリント1でまとめた語句、句法を書き下し文と口語訳に生かすための設問である。空欄を埋めていく形で学習者の負担を軽くした。

「設問3(〜6)」内容の理解を助けるための設問である。特に6は孟子の比喩を明らかにするために図式化した。ただ、これらの設問だけでは比喩という説得の論法の役割が分からない。そこで、導入の段階で、次のような発問を投げかけた。

(T) この時代の国王は強大な権力をもっていた。だから、それに逆らうことは死を意味する。例えば殷の時代の紂という王様は、自分に意見をした者は叔父までも殺している。だから、もし国王を説得しようとして失敗すれば死刑になる。仮に説得は成功しても機嫌を損ねたらやっぱり死刑になる。けれど、国王が間違った政治を行なっているときには誰かが

意見しなければならぬだろう。王の機嫌を損ねず説得を成功させる良い方法が一つあるのだが、どんなものだろう。

(S) いろいろな答えのあとに) 王様が自分で気が付くように仕向けられたい。

(T) そうするために、昔の思想家たちは命掛けて自分の弁舌を磨いたんだ。孟子という人もその一人です。ここではどんな説得の仕方をういたのだろうか。読み取ってみよう。

〔設問7〕この文章から発展して、孟子の理想の政治について考えさせる設問である。「漢文訓読のルール」のルール11練習問題5で読んだ文を参考にさせた。

二年次の指導から

(1) 学習プリント「桃花源記」について

「桃源郷」というユートピアは、生徒達も少し知っている。彼らは、不思議なこの世の楽園(御馳走があって、美女がいて、酒があつてといった類)をイメージしている。しかし、陶淵明の描いた「桃源郷」は何の変哲もない。このような世界がなぜ理想とされ、あこがれ続けられたか。この裏にある作者の社会批判を読み取らせたいと考えた。(資料⑦)

〔設問1〜4〕文章の前半を読み取るために、「桃源郷」にたどり着くための目印をまとめるといふ作業をさせた。設問4では漁人の見た「桃源郷」の姿をまとめさせた。

〔設問5〕漁人を「桃源郷」の人々の反応をまとめさせた。特に最初に出会った村人の行動の中で「還る」を他の同訓異義語と比較することによって、長い間外界と間隔していた人々が突然の来訪者に驚き、喜ぶ姿を読み取らせた。

〔設問6〜7〕「桃源郷」の人々の話をもとに、理想世界である「桃源郷」と現実の世界との対比を試みた。そして、秦、漢、魏、晋とつづく歴史の中で民衆は、政治が不安定な時代は戦乱に怯え、安定した時代でも重税に苦しまなければならなかったことに気付かせた。

さらに、この「桃源郷」はの後も中国の人々の心の中に理想境として生き続けたことは、現実の苦しみの裏返しであることを理解させた。

② 学習プリント「雑説」について

「雑説」も表面上は名馬と伯楽の話である。しかし裏には、才能を認められない不遇な韓愈の怒りが込められている。巧みな比喩表現を読みとることによって主題に迫らせたいと考えた。(資料⑧〜⑩)

〔設問1〜5〕書き下し文や口語訳を整理する問題である。

〔設問7〕「雑説」の比喩を明らかにするために文章の構造図をプリントし、完成させる方法を取った。「」には文章の語句を抜きだし、()には比喩の内容を書き入れさせるものである。そして、ヒントとして、韓愈の伝記を示しクイズのような投げか

け方をした。なお、この構造図は長谷川滋成先生の「漢文教育序説」を参考にさせていただいた。

③ 学習プリント「売炭翁」について

「売炭翁」は白居易の諷諭詩の一つである。題注に「宮市に苦しむなり」とあるように「宮市」という制度や役人の横暴に対する怒りが、さらにはこの時代の政治に対する批判が込められている。この老人の心情を読み取るにより主題に迫らせたいと考えた。

「設問1」詩の中にある心情語を抜き出させ、翁の心情を読み取らせる狙いだったが、あまり効果的ではなかったようだ。

「設問2」詩の内容を図式化する問題である。詩の前半には「売炭翁」の生活が描かれている。ここには主題と関わる矛盾が二つある。

①貧しく服も満足に着ていない翁が炭の値段が下がるのを恐れて寒くなれと願う場面。

②年老いてなお、重労働をしなければならぬ点。

である。①からは翁の貧しさに対する同情とこのような貧困を招く悪政に気付かせた。また②からは翁に子供はなぜないのかという点から、辺境の戦争で死んでしまったのかもしれないと、当時の時代背景を読み取らせた。詩の後半は心情と事件の経過をまとめ、宮市制度が民衆を苦しめたこと、またその中で役人たちが横暴をきわめたことを読み取った。

さらに同じ白居易の「新豊折臂翁」を参考として読み聞かせる

とともに、政治家でもあった白居易の政治批判の姿勢は、彼の地位を危うくするものでもあり、実際に流罪にあったこともあることを説明した。

三年次の指導について

就職試験終了後の三年二学期、生徒の解放感ため授業もやや困難になった。長い教材は避けて、唐詩を読むことにした。実践例として「竹里館」の場合をあげる。(資料⑩)

「竹里館」は自然詩人と呼ばれている王維の代表作で、教材としても多く取り上げられている。ただ、この詩を「自然と一体となった幽玄の境地」などととらえるのは、現代の若者には理解しがたいのではないか。むしろ、王維の描く自然は「官僚生活の合間に求める心の安らぎであり憧れ」であったと理解させたいと考えた。

「設問5」これは詩の内容だけから、人里を離れて自然と一体になって暮す、隠者のようなイメージをつかませる問題で、読解の第一段階である。

「設問8、9」参考資料によって王維の「半官半隠」の生活について理解した後、「竹里館」のような生活は、役人であった彼の安らぎであったことを理解させるとともに、現代にも通じる一面のあることを考えさせる設問である。

五、生徒へのアンケートから

三年生一学期の最後、教養コースの生徒に次のようなアンケートを取った。参考として紹介したい。

〔問一〕あなたは漢文が好きですか。

好き……………二一名
まあまあ好き……………二六名
どちらでもない……………一四名
あまり好きでない……………六名
きらい……………一五名

〔問二〕問一の答えの理由を答えてください。

好き・まあまあ好きの理由
・漢字ばかりの字を読めるのが楽しい、漢字ばかりですっきりしている。(三名)
・昔の中国の人の考え方が面白い。
・昔の人も今と対して考え方が変わらないということがわかったり、いろんなことがわかるから。
・中国の昔の話がわかるから。(二名)
・中国の歴史に興味がある。(二名)
・話の奥が深い。
・書き下し文にするのが面白い。(一六名)
・良く分かるから楽しい。(二名)

嫌い・あまり好きでない理由

・難しいから。(二三名)
・先生が嫌。
・テストの成績がよくない。

〔問三〕漢文の難しさはどのような点ですか。

(好悪に関わらず)
・漢字の読み方。
・語句の意味。
・返り点。

〔問四〕漢文が役だった点はどのようなことですか。(好悪に関わらず)

・難しい漢字が読めるようになった。
・諺の意味や成り立ちを覚えた。
・歴史や地理の勉強に役だった。
・漢文訓読ができるようになった。方法は輪を取っても忘れなだらう。
・進学コースの人と話していて意味が分かったとき「ああ、自分は教養があって良かった」と思う。

〔問五〕今後どのような教材を扱って欲しいですか。

・中国の歴史物語(史記・三国志)
・神秘的な話。

- ・諺の入った話。
- ・一般教養に役立つ話。
- ・兵法。

六、反省と展望

この文章をまとめながら、何度も考え込まされた。三年間という時間がありながら、わずかな教材しか扱っていない。一時間、一時間を何とか乗り切ることだけを考え、見失っていたものが多し、このことを改めて痛感している。以下、反省と展望をまとめる。

(1) 生徒に漢文学習への自信は身につけさせたか。

アンケートを見ると漢文に肯定的な考えの生徒がかなりあり、胸をなでおろした。「良くわかるので楽しい」という意見も多く生徒の自信の表われであると言える。しかし一方で否定的な答えの生徒の述べた理由のほとんどが「難しいから」というものであることも忘れてはならない。

取り組みの出発点はむしろ、後者の生徒たちに学習意欲や自信を回復させるということであった。また、扱った教材が、普通、入門期に取り上げられるようなものばかりであったことも考慮する必要がある。もっと複雑な本格的な作品を扱ったならば、拒否反応ももっと増えたかもしれない。

(2) 教材選択の方法の問題

扱ってきた教材の幅が狭く、絶対量も少ない。例えば、「史記」「十八史略」などの史伝教材、「論語」「老子」「荘子」などの思想教材といった漢文教材の中心教材を扱っていない点が反省される。生徒のアンケートにも、一般教養としての漢文を学びたいという意見があった。幅広い教材選択の必要がある。

(3) 学習プリントの形式の問題点。

これまで使用してきた学習プリントは

- ① 語句・句法の整理をするもの
 - ② 書き下し文・口語訳を整理するもの
 - ③ 読解のための問題
 - ④ 作品の内容を図式化してまとめるもの
 - ⑤ 教材に関連した読み物
- の五つの形式に分類されると思う。学習者自身の感想や意見を述べさせる活動は皆無ではなかったが、学習プリントを見直してみると、これが弱かったことが明白である。学習者の受け身の姿勢を打ち崩すためには彼らの考え方を授業の中心に生かすような課題をもっと充実させる必要がある。

七、付記

光葉会の発表から二年が過ぎた。昨年異動した現在の学校は、前任校よりもさらに学習意欲の低い生徒が多い。これまでに経験しなかった、授業妨害やエスケープの続発の中でどのようにして

生徒の意欲を高めていくか、一層の努力をしなければと考える。
る。

なお、今回整理をし直す際に、学習プリントをワードプロセッサで打ち直した。授業で使用し、学会で報告した際のもの、かなり体裁が変わっていることを付け加えておく。

(大分県立蒲江高等学校教諭)

〈参考文献〉

- ① 「漢文教育序説」 長谷川滋成著 第一学習社
- ② 「漢文の指導法」 長谷川滋成著 第一学習社
- ③ 「漢文の教材研究」(第一冊故事成語篇) 森野繁夫 溪水社

漢文学習プリント（訓読の基礎）その1 () (年) (組) (番) ()

【ルール1】送りがなと一緒に上から下に順序良く読むこと。

(1) 大器ハ晩ヘ成ス。

大器は晩成す。

大物は年を取ってから、その実力があらわれてくる。

(2) 日暮レ道シ遠シ。

()

日がくれるのに、まだ目的地まで遠い。年を取ったのにまだ目的が達成までほど遠い。

(3) 国破レ山シ河シ在リ。

()

故郷の国は戦いのためにめっちゃめっちゃになったが、故郷の山や河はむかしのままである。

(4) 江碧ハ鳥ニ逾ヘ白ク。

()

揚子江の水は深いみどりいろ、それに浮かぶ水鳥はあさやかな白だ。

(5) 一将功成リ万骨枯ル。

()

一人の將軍の手柄の陰には、何万人もの無名の兵隊の死がある。

(6) 家富ミ小兒嬌シ。

()

家が金持ちになると、子供がぜいたくになり、いはりたす。

【ルール2】レ点≡下の一字から、すぐ上の字に返って読む記号。

□レ□

※「レ点」や次に出る「一・二点」「上中下点」のことを返り点という。返り点のついている部分はそのルールにしたがって読むが、返り点のないところはルール1にしたがって読む。

(1) 君子之ル交、淡若シ水。

君子の交はりは、淡きこと水のごとし。

立派な人間同志のつきあいは、水のようにあっさりとしている。

(2) 知レ彼、知レ己者、百戦不殆。

彼を知り己を知る者は、百戦殆ふからず。

敵の力を良く知り、自分の力を良く知っている者は、百回戦っても絶対に負けない。

(3) 有レ備、無レ憂。

準備ができていれば、何も心配がない。

(4) 後生可シ畏。

あとから生まれたものは、畏れ敬うべきだ。

(5) 徳不レ孤、必レ有レ隣。

人格の高いものは孤独ではない。必ず味方がいる。

(6) 人必レ自侮、然レ後人侮レ之。

人はまず自分で自分を怠らしにして、それから人に馬鹿にされるようになる。

(7) 桃李不レ言、下自成レ蹊。

桃やスモモは言葉を喋らないが、美しい花やおいしい実によって、木の下には自然と道ができる。

【ルール3】レ点は二つ以上続くこともある。

□□□□

(1) 過則勿憚改。

過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。

失敗したら、それをやり直すのに遠慮してはならない。

(2) 覆水不返盆。

こぼれた水は元には戻らない。一度してしまったことは、とりかえしがつかない。

(3) 一寸光陰不可軽。

わずかな時間も無駄にしてはならない。

(4) 玉 不_レ琢_ハ 不_レ成_レ器_ヲ。

（ ） 宝石もみがかなければ使い物にならない。才能があっても努力しなければ大成しない。

メモ

漢字を平仮名に直さなければならぬ字

助動詞(不(ず)、可(べし)、若(ごとし))
助詞(之(の))

資料 ②

漢文学習プリント(訓読の基礎)その2 ()年()組()番()

【ルール4】二字以上離れた下から上の字に返って読む記号 一・二点 □□□□

(1) 人 無_ニ 遠_キ 慮_ハ 必_ク 有_リ 近_キ 憂_ハ。

人遠き慮り無ければ、必ず近き憂へ有り。

人は先のことを考えておかないと、必ずすぐに困ったことが起こる。

(2) 千 丈_ノ 堤_モ 以_テ 螻 蟻_ノ 之_一 穴_ヲ 潰_ユ。

千丈の堤も螻蟻の穴をもつて潰ゆ。

千丈の高さ(千メートル)の堤防も、蟻の穴ひとつでつぶれてしまう。

(3) 尽_ニ 人 事_一 待_ニ 天 命_ヲ。

人間の力でできる努力をすべてして、それから天命を待つ。

(4) 霜 葉_ハ 紅_ニ 於_リ 二 月 花_一。

霜枯れの紅葉は、春の盛りの花よりも赤い。

(5) 青 取_ニ 之_ヲ 於_リ 藍_一、而 青_ニ 於_リ 藍_一。

青の染料は藍から取るが、藍よりも青い。先生よりも弟子のほうが優れていること。

(6) 自反^{みづかひ}而直^{ただ}雖^レ一^ニ千^ニ万^ニ人^ト一^ニ吾^レ往^ム矣^ハ。

自分で反省してみて正しければ、敵が千万人いても、私は行。

【ルール5】「一二三…」と返っていく場合もある。

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

(1) 天帝^{てんてい}使^シ我^ガ長^シ百^ニ獸^ト 天帝^{てんてい}我^ガを^シて^シ百^ニ獸^トに^シ長^シた^ラし^ム。

天の神が、私にあらゆる動物の王とならせた。

(2) 臣^{しん}、恐^ス強^ク秦^シ之^ヲ為^ス漁^ノ父^ト。

わたくしめは、強國の秦が漁夫之利をえることを心配します。

(3) 知^チ三^ニ時^ト有^リ二^ニ利^ト不^レ利^ト一^ト也^ハ。

うまくいく時と、うまくいかない時とがあるのを知っている。

(4) 知^チ我^ガ有^リ二^ニ老^シ母^ト一^ト也^ハ。

私に年老いた母がいることを知っている。

【ルール6】レ点と一・二点は同じ文の中で一緒に使われることがある。順序よく読む。

(1) 返り点のない字を先に、上から下に読んで行く。(ルール1)

(2) レ点があれば、その下の字から返って読む。(ルール2、3) □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

(3) 一・二点はその順に返る。(ルール4、5)

(1) 百聞^{ひゃくぶん}不^レ如^シ一^ニ見^ニ。

百聞は一見に如かず。

(2) 拳^{こぶし}頭^{あたま}望^ム二^ニ山^ト月^ト。

頭を挙げて、山上に上った月を見る。

(3) 君ハクメ川流、我ハ拾レ薪ヲ。

君は川の水を汲んでくれ、僕は薪を拾おう。

(4) 有ニ善レ術者。

占いの上手な者がいた。

(5) 不入ニ虎穴、不レ得ニ虎子。

虎の穴に入らなければ、高価な虎の子供は手にいれられない。危険を冒さなければ、宝物は手にいれられない。

(6) 虎不レ知ニ獸、畏レ己而走一也。

虎は獣たちが自分を恐がって逃げたのを知らなかった。

メモ 置字といって読まない字がある。く於、而、矣、也 など

資料 ③

漢文学習プリント(訓読の基礎)その3 () (年) () 組 () 番 ()

【ルール7】一レ点はレ点+一点である。まずレ点に従って下の字から返り、次に一点から二点...と返っていく。

※一レ点上レ点はあるが、二レ点、下レ点はない。□□□□□□

(1) 他山ノ石可ニ以テ攻レ玉。

他山の石、以て玉を攻むべし。

ありふれたところで、実力を磨くように、他人の行いを見て、貴方の才能を磨きなさい。

(2) 子無^レ二敢^{カレ}食^ヘレ^ク我^ヲ也^ト。

() あなたは私を決して食べてはなりません。

(3) 欲^スニ改^レ推^ヲ作^ニレ^テ鼓^ト。

() 推の字を改めて、鼓の字に替えようと思う。

(4) 先^ズ即^チ制^シ人^ヲ後^ル即^チ為^ルニ人^ノ所^ト制^ス。

() 先手を打てば、他人を支配できるが、後手に回れば他人に支配される。

(5) 鮑叔不^ニ以^テ我^ヲ為^レ愚^ト。

() 鮑叔は私を愚か者だとは思わなかった。

(6) 鮑叔不^ニ以^テ我^ヲ為^レ無^レ恥^ト。

() 鮑叔は私を恥知らずだとは思わなかった。

【ルール8】二点で返った字を熟語で読みたいときは字の間に「(ハイフン)」を引く。□―□□□

(1) 一篇一詠、膾炙人口。一篇一詠、人口に膾炙す。

() 作品の一篇、一詠、すべて人々に愛された。

(2) 吾日三省吾身。

() 私は一日に、自分のことを三回反省する。

(3) 願王熟計之。

() 王様、どうかこのことを良く考えてください。

(4) 九合諸侯、一匡天下。

() 諸國の王を何度も集めて会議をさせ、天下を一つにまとめた。

【ルール9】上中下点―一・二点の部分飛び越えて返る時に使う。

一・二点の部分を読み、上中下点の部分は後に読む。

□_下□□□□□□□_上

(1) 君子欲_下讞_ニ於_ニ言_ニ而敏_中於_ニ行_上

君子は言に讞にして、行ひに敏ならんと欲す。

立派な人物は、口下手であるが、行動はすばやくしよと思ふ。

(2) 客有_下能_為為_ニ狗盗_{一者}者_上

客人の中に、こそどろのできる人がいた。

(3) 楚人有_下鬻_ニ盾_ト与_レ矛者_上

楚国の人に盾と矛とを売るものがいた。

(4) 不_下為_ニ兒孫_一買_中美田_上

子孫のために立派な田んぼなど買ってやらない。子孫には遺産は残さないものだ。

(5) 如_下揮_ニ快刀_ヲ断_中乱麻_上

良く切れる刀でもつれた麻糸を切るようなものだ。ややこしい問題をスバツと解決すること。

(6) 欲_下以_ニ先王之_の政_一治_中当世_の之_の民_上

昔の王様の政治のやり方で、今の人民を治めようとする。

故事成語 (漢文がもとになってきた言葉)

他山の石

推敲

管鮑の交わり

人口に膾炙する

矛盾

鷄鳴狗盜

快刀乱麻

虎の威を借る狐

(2) 知_ル可_キト以_テ戰_フ与_レ不_ル可_ク以_テ戰_フ者_ハ勝_ツ。

聞わねばならない相手と、戦ってはならない相手とを知っている者は勝つ。

(3) 所_レ以_テ謂_フ人_ニ皆_ク有_リ不_レ忍_ビ人_ノ心_ニ者_{ナリ}。

人々が皆、思いやりの心を持っているという理由である。

(4) 知_レ我_ノ不_レ差_ニ小_節而_チ恥_ツ功_ノ名_ノ不_レ顯_ニ天_ノ下_ニ也。

私が、ささいな失敗を恥だとは思わず、自分の名声が天下に知れ渡らないことを恥ずかしく思うこと

(5) 明_君制_ス民_ノ之_レ産_ヲ必_ズ使_ム仰_テ足_リ以_テ事_ス父_ノ母_ノ俯_テ足_リ以_テ蓄_フ妻_ノ子_ノ。

樂_ノ歳_ハ終_ハ身_ハ飽_キ凶_ノ年_ハ免_レ於_テ死_亡。

すばらしい王様が、人民の財産を支配する場合、必ず、両親を養うのに十分で、妻子を養うのに十分で、農作の年は一年中たっぷり食べられ、凶作の年でも死なないうにさせる。

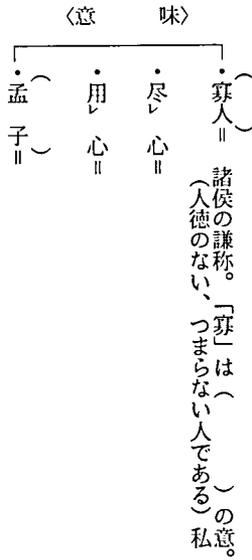
次の人名や作品名を知っておこう。

〔詩人〕 李白 杜甫 杜牧

〔史伝〕 〔史記〕 「十八史略」 「三國志」 司馬遷

〔思想〕 〔論語〕 孔子 孟子 老子 莊子

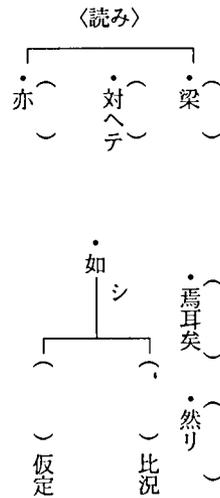
国語科学習プリント（漢文・五十歩百歩）その1



一、重要語句の整理

クイズ（南と北・陰と陽）

- 山陰（山の） 河陰（河の）
- 山陽（山の） 河陽（河の）
- 洛陽（洛水の） 淮陰（淮水の）



※本文中の次の漢字を使って、それぞれ（ ）の意味をあらわす熟語をつくれ。

- ・凶（作物の収穫が、極端に悪いこと）
- ・喩（たとえること。詩の技巧）
- ・鼓（はげますこと。力づけること）
- ・棄（ほうり出すこと。途中で投げだすこと）

- | | | | | |
|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 5. | 4. | 3. | 2. | 1. |
| A | 如 | 何如 | 亦 | 焉耳矣 |
| 於 | | | | |
| B | (假定) | (疑問) | | (限定) |
| (比較) | ↓
(訳) 訓読 | ↓
(訳) 訓読 | ↓
(訳) 訓読 | ↓
(訳) 訓読 |
| | () () | () () | () () | () () |

寡人之於国也、尽心焉耳矣。

河東凶亦然。

以五十步笑百步則何如。

王如知此、則無望民之多於隣国也。

国語科学習プリント（漢文・五十歩百歩）その2

2、書き下し文と口語訳

〔口語訳〕 梁の恵王が言った 「（ ）の国の政治については（ ）。

〔書き下し文〕 梁の恵王曰く 「寡人の（ ）心を尽くす（ ）。

河内地方が（ ）その（ ）の人々を河東に移し、（ ）の食料を河内に移す。河東地方が凶作であっても（ ）河内凶ならば、則ち、其の民を河東に移し、其の粟を河内に移す。河東凶なる（ ）亦然り。

（ ）隣国の人々が少なくならないで、隣国の政を察するに、寡人の 心を用ゐるが（ ）者無し。隣国の民（ ）。

私の国民が（ ）と。

寡人の民多きを加えざるは（ ）と。

孟子が答えて言った。王様は戦争がお好きです。戦争に（ ）。

孟子 対へて曰く、「王」戦ひを好む、請ふ 戦ひを以て諭へん。

（ ）と攻め太鼓がたたかれ戦いがすでに始まりました。よろいをすて、武器をひきずって逃げる者がいます。ある者は百歩逃げて、そして憤然として 之に鼓し、兵刃 既に接す。甲を棄て、兵を曳きて走る。（ ）

止まり、（ ）と。

（ ）或いは 五十歩にして後 止まる。（ ）と。

() が言った。() ただ百歩でないだけだ。() ()と。

曰く、「不可なり。」() 是も亦 走れるなり。」() ()。

() が言った。「王様、() ()と。」

曰く、「王 () ()、則ち ()

()と。」

()と。

3、梁の恵王は、自分の政治をどう思っているのか。

4、その例として恵王があげている事柄をまとめなさい。

• () ()の元氣な住民を () ()が充分にある河東に移す。

• () ()の食料を、河内の () ()や () ()のために移す。

河東地方に凶作が起きても () ()。

•

5、その結果、恵王はどうなるはずだと思っているのか。

6、孟子の比喩について答えなさい。

五十歩逃げた者	[比喩]	() の政治
笑うことは不可。		国民が () ことを望むのは不可。
(逃げたいという点で同)		() という点で同じ。
百歩逃げた者		() の政治

7、孟子はどのような政治でなければならないと言っているのか。別紙を参考にして答えなさい。

資料 ⑦

国語科学習プリント(桃花源記くその1)

二年 () 組 () 番 ()

☆桃源郷とは、中国の人々が心に描いた理想境(ユートピア)です。どのような世界なのか、どうしてそのような世界が想像されたのか、考えていきましょう。

問一 時代と場所、主人公についてまとめよう。

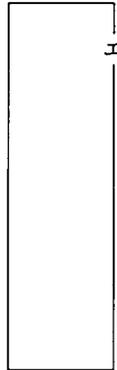
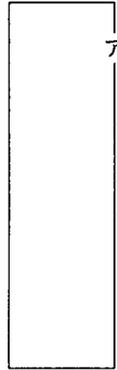
- (1) 時代「」の「」年間〓今から約() 年前、日本は() 時代。
 (2) 場所「」↑地図で確認しておこう。

(3) 主人公「人」

問二 「桃源郷」にたどり着くための目印は、どんなものだろうか。

溪の上流に「ア」があり、さらに進むと「イ」があり、そこには一つの「ウ」がある。
その「ウ」には小さな「エ」がある。それを通り抜ければ桃源郷である。

もっと詳しく



問三 「桃源郷」へたどり着くための地図を作りなさい。

問四 たどり着いた漁人が見た世界についてまとめよう。

土地「	」	「	」	「	」
屋舎「	」	「	」	「	」
阡陌「	」	「	」	「	」
男女の衣装		「	」	「	」
黄髪・垂髻「	」	と	「	」	は
					「

「が聞こえる。」

「がある。」

「がある。」

「がある。」

一言で言って



な世界



問五 漁人を見た桃源郷の人々の反応はどうだったのか。またその理由も考えよう。

漁人を見て「
「いて、
」を問う。

ぜひにと求めて「
（家に（
）り、
」。
」。

「、大歓迎する。

問六 桃源郷の人々の話
よう。

にもとづいて次の図をまとめ

「
」世界Ⅱ桃源郷 現実世界 歴代王朝

どのような世界か

先世Ⅱ「
」

（
）を避けるため、やって来た。

不復出Ⅱ「
」

約「
」年間

知らず

不復得路

秦 ← 漢 ← 魏 ← 晋

どのよう
な世界か

問七 なぜ、桃源郷が中国の人々の心の中で想像され続けたのだろうか。

問三 このような社会批判の込められた詩を何というか。()
問四 白居易の「新豊折臂翁」を読んで「売炭翁」と比べてみよう。

資料 ⑨

国語科学習プリント(雑説・その一)

雑説

1、次の漢字の読みを調べなさい。

- ・伯楽 ()
- ・然後 ()
- ・故 ()
- ・雖 ()
- ・辱 ()
- ・奴隸人 ()
- ・食馬 ()
- ・不飽 ()
- ・不外見 ()
- ・且 ()
- ・不可得 ()
- ・策 ()
- ・執策 ()
- ・臨策 ()
- ・嗚呼 ()

韓愈

2、次の語句の意味を辞書で調べなさい。
(*は、教科書の注にある)

- *伯楽 (火の八画)
- *然後 (火の八画)
- *千里馬
- *奴隸人
- *駢死
- *槽檻之間
- *粟 (米の六画)
- *一石
- *飽 (食の五画)

3、次の句法を整理しなさい。

・不常……(部分否定)

伯 楽 不 常 有。

ツネニハ……ズ
いつも……とは限らない

() ()

・常不……(全部否定)

伯 楽 常 不 有。

ツネニ……ズ
いつも……ない

() ()

・安……也(反語)

安 求 其 能 千 里 也。

イツクンゾ……ヤ
どうして……か(いや……ない)

() ()

・……邪(疑問)

嗚 呼 其 真 無 馬 邪。

……カ
……か

() ()

4、次の各問に答えなさい。

・「千里馬」と同じ意味の語と反対の意味の語を、それぞれ二字でぬきだせ。

同じ意味 () 反対の意味 ()

・「伯楽」と反対の意味の語を三字でぬきだせ。

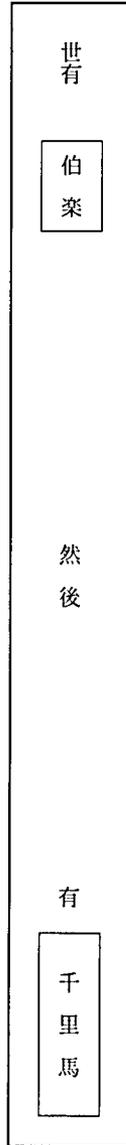
()

国語科学習プリント(雑説・その3)

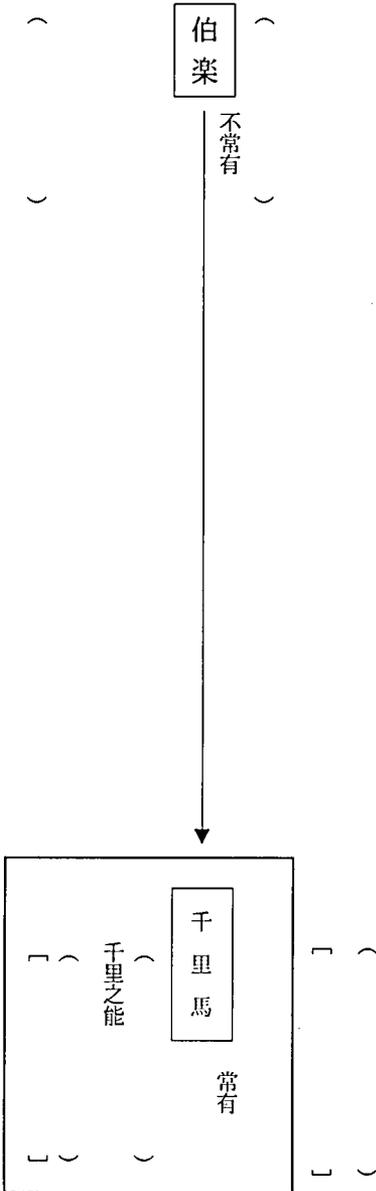
二年()組()番()

問7、作者、韓愈の伝記(「新唐書・韓愈伝」)には、次のような記述がある。
「愈は既に才高くして、しばしばしりぞけられ、官はまた下選す。」
これを参考にして、「雑説」の比喩を明らかにしよう。

序論



本論



結論

嗚呼、
 其真無馬邪
 其真不知馬也。

食 馬 者	奴 隸 人
-------------	-------------

臨之曰、「天下無馬」

嗚之、不能通其意

且欲与

常馬

 等、不可得

食之「
 策之」

食不飽、力不足、才美不外見

不知「

「而食也。

駢死於槽櫪之間。

国語科学習指導案

指導者 永楽仁八

昭和62年11月13日 金曜 第3限

野津高等学校 第2学年2組(男子18名, 女子27名)

1. 使用教科書 基本国語Ⅱ 新修版 (明治書院)

2. 単元 元 中国の詩文

3. 単元目標 (1) 辞書を引くことにより, 正しく訓読し, 自力で口語訳をできるようにさせる。

(2) それぞれの文章の主題をよみとらせる。

(3) 歴史的, な背景と主題とを考えあわせ, 社会に対する各自の見方, 考え方を深めさせる。

4. 学習指導計画

第一次 「桃花源記」 陶潜: 4時間

第二次 「雑説」 韓愈: 3時間
第1時 語句・句法の整理。〔学習プリント1〕

第2時 通釈の整理。〔学習プリント2〕

第3時 主題の把握・まとめ 〔学習プリント3・4〕 (木時)

第三次 「売炭翁」 白居易: 2時間

5. 本時の学習指導案

・教材 「雑説」 韓愈

・本時の目標 (1) 巧みな比喻表現を理解させることにより作品の主題を読みとらせる。

(2) 作者の考え方に対して, それぞれの感想を文章化させる。

・展開

終 結	展 開	導 入	
<p>5. 次時の予告</p> <p>4. 本文に対する感想をまとめる。</p>	<p>3. 主題を把握する。</p> <p>2. 比喩の内容を明らかにし本文の構造を理解する。</p>	<p>(3)X(2)X(1) 1. 前時の学習内容の確認と本時の目標を理解する。 音読 通訳の確認 本時の目標の理解</p>	<p>学 習 活 動</p>
<p>・ 参考として「国士無双」と呼ばれた韓信の話を読ませる。</p> <p>・ 各自で二百字程度にまとめさせる。</p> <p>・ 机間指導</p>	<p>・ 韓愈の伝記の一節を紹介する。</p> <p>・ 「千里馬」「伯楽」「奴隸人」の比喩するものを明らかにさせる。</p> <p>・ 「千里馬」の特徴とその比喩する事柄を明らかにさせる。</p> <p>・ * 「千里之能」 政治家としての才能</p> <p>・ * 「粟一石」 高い地位・奉禄</p> <p>・ 「奴隸人」の「千里馬」に対するしうちと、その比喩する内容を理解させる。</p> <p>・ 「奴隸人」に「食」われた「千里馬」の悲劇と、その比喩する内容を理解させる。</p> <p>・ * 「鳴之不能通其意」 才能を訴えても認められないこと。</p> <p>・ * 「駢死於槽櫪之間」 凡人達の間で死んでいくこと。</p> <p>・ 「伯楽」に「食」われた「千里馬」はどうなるか考えさせる。</p> <p>・ 結論の部分の真意を明らかにし、主題をまとめさせる。</p>	<p>指導者について、全員で音読させる。</p> <p>・ 一人指名。</p> <p>・ 「雑説」の比喩を明らかにすることを指示。</p>	<p>指 導 上 の 留 意 点</p>
<p>10分</p>	<p>30分</p>	<p>10分</p>	<p>分</p>
<p>学習プリント4</p>		<p>学習プリント3</p>	<p>備 考</p>

雑説 韓愈

才能を見抜く名君

才能を発揮

伯樂

不常有

千里之能

才能のある人

千里馬

常有

すぐれた才能

千里之能
高い地位・奉禄が必要
尽粟一石

才能を見抜けない小役人

世間に埋もれて死ぬ

駢死於槽檻之間

奴隸人
食馬者

才能を見抜けず使う

不知其能千里而食也

策之不以其道

食之不能尽其材

十分な地位でなければ力が発揮できない

〈結論〉

人材がいらないのか、

それを見抜けないのか

食不飽力不足

凡人よりも劣ってしまう

欲与常馬不可得

訴えても聞き入れられない

鳴之不能通其意

才能のある人物がいらない

「天下無馬」

国語科学習ノート

三年（ ）組（ ）番（ ）

作品名
竹里館

ジャンル
唐詩

作者者

時代
盛唐

検印

章段名

その(1)

教科書 P(50) 1(1) () P(50) 1(12)

☆教科書本文を丁寧に写そう。☆口語訳をしよう。
☆書き下し文を作ろう。

☆辞書を引こう。

独	坐	幽	篁	裏
彈	琴	復	長	嘯

発展問題

7	6	5	4	3	2	1

